



ようこそ

Track 1

Trinity College DublinのKellsの書体験へようこそ。旅の初めに、1732年に初めて開館した旧図書館を見学します。旧図書館には、アイルランドの最も偉大な文化遺産であるKellsの書と、世界で最も美しい図書館のひとつと言われる「ロング・ルーム」(長い部屋)があります。お使いの携帯電話のオーディオツアー再生リストには、各パートに番号が振られています。ルートは、1階のKellsの書展示室を通り、Kellsの書本体が収められている宝物庫に向かいます。その後は、旧図書館の1階にある「ロング・ルーム」を探索します。

旧図書館ツアーの後、次はレッドパビリオンビルディングを訪れます。この建物は歩いて1分ほどの距離に位置しています。ここでは、古い図書館の貴重なコレクションをデジタルで楽しむことができ、ケルズの書の歴史への旅が始まります。

準備が出来たら、始めましょう!

Oghamの石

Track 2

Ogham 文字は原アイルランド語の表記に用いられ、4世紀またはそれ以前に発生したと考えられています。現在も残されているOgham文字はOghamストーンという石碑に刻まれています。一般的には木が用いられたとされています。横文字として読み、複数の横線、斜線や縦線が違った文字や音を表します。Oghamストーンはアイルランドの、主に南西部で見つかっていますが、実はウェールズ、スコットランド、イングランド、マン島でも発見されています。

Ogham 文字は、従来から異教の書記体系として知られていましたが、最近の研究では、ほとんどの石碑が5世紀から6世紀頃に書かれたものとされており、アイルランドのキリスト紀元にさかのぼります。Ogham 文字の碑文には、人の名前とその部族について書かれており、この二つの石碑も、領土の境界を示すために置かれていたとされています。現在もアイルランドに残されている300ほどのOgham ストーンのうち、80以上はKerry州に由来しています。大きい方の石碑は、Kerry州フォートウィリアムにある青銅器時代の要塞集落の円形土砦からのもので、「名前」を意味するAnmと「息子」を意味するMacという言葉が石に刻まれています。

小さい方の石碑は、ケリー州のBlasket諸島の一つであるInish-Vickillane という島のものです。これには、「名前」を意味するAnmと「孫」を意味するAviが書かれています。そして、石の四方のすべてに十字架が刻まれています。

Ogham 文字は7世紀以降、石に刻まれた文字としての使用が少なくなりましたが、「学問的なogham文字」として9世紀のアイルランドの写本の余白に書かれています。

四人の伝道師の象徴

Track 3

Kells の書には、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの四つの福音書が収録されています。これは西暦800年頃に書かれており、活版印刷が中国で発明される約600年前や聖パトリックがアイルランドに到着してから400年後のことです。この書の歴史について知るためには、二つの修道院が鍵となります。それは、スコットランド西海岸沖に位置する島にある「Iona 修道院」、そしてMeath県に位置する「Kells 修道院」です。

聖 Colum Cille (もしくはColumba) はIona 修道院を創建し、この書は彼の死を讃えるために書かれたものだと思われています。Kells の書は、保全のために移動された可能性があると考えられています。孤立した島は、795年及び802年にバイキングに襲われ、806年のバイキング襲撃では68人の僧侶が殺されました。生き残ったいくつかの僧侶はIona を去って、Kellsで修道院を立ち上げ、福音書を守るため、この時一緒に持ってきたとされています。

右側には、書に登場する4人のエバンジェリスト(伝道者)のシンボルが拡大されています。マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネです。彼らはキリスト教の伝統では、新約聖書に収められている四つの正典福音書の記者とされています。エバンジェリスト(伝道者)という言葉は、ギリシャ語で「良い知らせ」を意味します。

時計回りに、左上から聖マタイは人、聖マルコは獅子、聖ルカは子牛、そして聖ヨハネは鷲で表現されています。4世紀、教皇グレゴリウスはこれを、イエス・キリストの生涯の四つの段階として解釈しました。人間として生まれ、子牛として死の犠牲となり、獅子として復活し、鷲として天に昇ったのです。

顔料

Track 4

Kells の書は、装飾の豊かさと美しさで有名であり、原稿が作られた約1200年後の今でも、その色は明るく輝いています。あまりにも精巧に色が塗られているため、その活気に満ちた多様な色はどのようにして作られたのか、何世紀にも渡って謎とされてきました。

そして、本の原料を長年に研究した結果、使われていた色は、中世のアイルランドとスコットランドで簡単に手に入る材料で作られていたことが判明しました。

主に文字に使用されていたのは、「没食子インク」という没食子と硫酸鉄、タンニン酸を、ワインもしくはお酢と混ぜたインクです。青色は、アイルランドやイギリスで衣類を染色するために栽培されていたホソバタイセイから抽出された藍染料が使われていました。

紫色は、アイルランド全土にある樹木、土壌、岩に生える菌類・植物の雑種である「地衣類」を使って作られていました。

文字に使用されているとても濃い黄色の原料は、硫化ヒ素から作られていました。これは、石黄もしくは金粉として知られており、光沢ある金色の品質は高く認められています。Kellsの書を見ると、金色が際立って輝いているように見えるはずです。

これらの色は、単色、混色、色層など、優れた創造性から使い方を分けて使用されていました。ところどころの色は赤い点で強調され、クリーム色の羊皮紙に活気を持たせてくれます。目の前のケースには、Kellsの書で使われていた顔料とインクの色サンプルが展示されています。

牛革のVellum

Track 5

目の前に展示されているKellsの書は、当時の他の写本と同様、子牛などの動物の皮をなめして作ったvellumを使用していました。写本はおよそ185頭の子牛の皮で作られたとされています。Vellumを材料として用いるためには、生皮をライムに浸らせ、破片をナイフでこすり落とす必要がありました。その後、皮を木枠に伸ばして乾燥させていました。それぞれの皮には、皮側と肉側があり、中世のいくつかの写本のページには、毛穴が見受けられます。筆写者は、なめらかな肉側を最も精巧な装飾ページに使用していました。中世の時代、vellumはとても貴重な材料でした。その結果、筆写者は完璧でなくても、手元にある皮で書を作ったため、修繕またはパッチした箇所縫い目が見られます。

見開きになっている4人の福音書記者の右下にある縫い目箇所、気付きましたか？

Vellum はとても効果的な材料で、筆写者が書き間違えた場合、間違った箇所を簡単にナイフで切り落とすことができました。筆写者は、白鳥やガチョウの羽から作られた羽ペンを使って書き物をしました。

それでは、展示会の反対側に向かい、The Art of the Quill の映像をお楽しみください。静かに耳を澄ますと、筆写者がvellumに書くときの羽ペンがこする音も聞こえてくるはずです。

Chi Rhoのページ

Track 6

今、中世美術の最も有名な画像の1つであるKellsの書のChi Rho ページの目の前に立っていることに気づかれたかと思います。Chi Rho とは、ギリシャ語で、キリストの名前を略したものです。芸術的に書かれたX、PとIの文字が見えますでしょうか？

拡大して見てみても、細かな部分までもが驚くほど複雑な模様で、Kellsの書を作成する上で若い僧侶が、どれくらいの努力を重ねたのかが伺えます。

信じられないほど熟練した規律を必要とし、視力やスタミナが消費されるような作業でした。実際、写本作業をしていた僧侶の多くが「もううんざりだ!」「ここは寒すぎる!」「早く終わればいいのに!」と、余白にメモを残すこともありました。これらの僧侶の年齢は恐らくとても若く、18歳もしくはそれ以下の年齢だった可能性が高いのです。当時、18歳という年齢は中年とみなされていましたね!夜明けから夕暮れまで、薄明かりの中で作業をするためには、優れた視力が必要でした。

少し立ち止まって、右側のパネルの説明を読みながら、もっと近くから見てみてください。

Chi Rho ページの反対側に、拡大された別のページがあります。これは、福音記者ヨハネの肖像画です。聖ヨハネはキリストの言葉を載せた福音書を手にしています。額縁の外側にはヨハネ以外の別の人物の頭の下部、足、手がチラリと見えます。残念ながら、Kellsの書が1826年に製本された際、ページの一部が切り取られ、装飾の一部が失われました。



Kellsの書物

Track 7

最後に、歴史の流れをすべてまとめ、世界で最も有名な中世の写本を生で見るチャンスです。『ケルズの書』は、湿度を一定に保ち、有害な光から守られた、注意深く管理された環境で展示されています。

『ケルズの書』は日常的に使用されるものではありませんでした。実際、祭壇に置かれる儀式用の写本でした。1,200年前に作成された当時、多くの人々にとって、このような芸術作品に触れる機会はほとんどなかったため、畏敬の念を抱かせる光景だったことでしょう。個々の筆記者や芸術家の素性は分かっていませんが、彼らの個性は、各ページに装飾された驚くほどの多種多様な文字や言葉の中に表れています。それらは、遊び心のあるものであったり、幾何学的なものであったり、流動的なものであったり、強烈に表現的なものであったりと様々ですが、決して反復的なものではありません。例えばラテン語が読めたとしても、人間や動物の体を歪めたような、美しくも見慣れない文字に目を慣らすには時間がかかります。

『ケルズの書』はまさに、中世初期の修道院の世界における最も偉大な功績の1つです。そのデザインの独創性、色彩の独創的な使い方、そして絵の難解な複雑さは、間違いなくこの偉大な福音書を世界の驚異の中に位置づけるに違いありません。トリニティ・カレッジにとって、この書が将来の世代にインスピレーションを与え続けられるように保存する責務を負うことは、大きな光栄です。では次に、2階に上がって、壮大なロングルームをご覧ください。

図書館再開発プロジェクト

Track 8

旧図書館ロング・ルームへようこそ。アイルランドの「前室」とも呼ばれ、世界で最も美しい図書館のひとつとされています。図書室は1732年から図書館として使用されており、今日に至るまで学生や学者が使用しています。現在、旧図書館再開発プロジェクトと呼ばれる、建物を保護するためのランドマーク修復および保存プロジェクトが進行中です。この一環として、旧図書館に保管されているコレクションはすべて撤去され、特別な保管庫に移されました。図書館員兼大学アーキビストのヘレン・シェントン氏がさらに詳しく説明します。

現在の旧図書館再開発プロジェクトには3つの主要な要素があります。まず、18世紀に建てられたこの建物の保存と、数千年にわたる膨大な図書館コレクションの保護です。私たちは、4世紀目を迎える建物の保全と、コレクションのための環境改善および防火対策を行わなければなりません。第二に、来館者のために新しい展示を作成しています。それは、『ケルズの書』の解釈や図書館の貴重な宝の解説など、より充実した博物館体験を提供するものです。そして第三に、学生や研究者のための国際的基準となる、新しいインスピレーション溢れる研究コレクション・スタディセンターの創設です。そのためには、70万点にのぼるコレクションの整理の一環として、収蔵されているすべてのコレクションを移動させなければなりません。そのためには、記録を電子化するための更新を行い、蔵書をクリーニングし、追跡できるようにタグを付ける必要があります。また、工事による閉館中も来館者がすべての蔵書にアクセスできるよう、臨時の研究コレクション学習スペースも設けます。旧図書館はトリニティ・カレッジ・ダブリンの中心部であり、大学の魂です。図書館とそのコレクションは、アイルランド最大の文化遺産であり、私たちは何世代にもわたって保存しなければなりません。

デカント

Track 9

もうお気づきだと思いますが、保存修復チームが旧図書館の蔵書の大半を撤去したため、本棚にはほとんど本がありません。旧図書館からアイテムの大部分が撤去されました。本棚とロングルームの図書室は何百年も空になっていたということから、あなたが目の当たりにしているのは、一生に一度の歴史的な出来事であることを意味します。

書籍の撤去作業はデカントと呼ばれ、この規模のデカントは非常に珍しいです。棚から取り出された各本は、特殊な掃除機で清掃、測定、タグ付けされ、オンラインカタログの記録にリンクされてから、温度管理された一時保管施設に安全に移されます。

図書館に吊り下げられた大型スクリーンには、デカントの舞台裏の映像が展示されています。各工程で行われた細部にわたる丁寧な作業を、じっくりとご覧ください。

宣言

Track 10

ロングルームの最初の展示ケースには、おそらくアイルランド史上最も象徴的な文書である「アイルランド共和国宣言」の数少ない現存するコピーが収められています。これは、1916年のイースター蜂起の際、ダブリンの郵便局前でPatrick Pearseが読み上げたものです。アイルランド共和国の臨時政府を宣言した後、この歴史的な文書の署名者たちは、その後、軍法会議にかけられ、死刑を宣告されました。

1916年のイースター蜂起の際、アイルランド市民軍とアイルランド義勇軍によって宣言が発表されました。そこには、アイルランド共和国の独立が宣言され、独立暫定政府が任命されたことが記されています。ヨーロッパのほとんどの国が皇帝や王によって支配されていた時代に、この文書は共和制を求めたもので、多くの点において時代に先駆けたものでした。文書の一節ではこう宣言されています：

アイルランド共和国は、すべてのアイルランド人男性およびアイルランド人女性の忠誠を受ける権利を有しており、ここに忠誠を主張します。アイルランド共和国は、すべての国民に宗教的および市民的自由、平等な権利、平等な機会を保証し、国家のすべての子供たちを平等に大切にしながら、国全体とそのすべての地域の幸福と繁栄を追求する決意を宣言します。

当時Liberty Hallで約1000部が印刷され、現在では約50部しか現存していません。あなたが見ているものは、O' Connell Stの反乱軍本部の壁から取られたものだと考えられています。そのため、この文書は非常に貴重なものなのです！どうやら、印刷前に一部の書体が足りなくなり、別の印刷業者に依頼してレイアウトを完成させたようです。そのため、この希少な「アイルランド共和国宣言」には複数のフォントが使用されていることが分かります。

女性の彫刻

Track 11

18世紀以来、ロング・ルームの図書室には、時代を超えて偉大な思想家、学者、作家を象徴する大理石の彫刻肖像画が並んでいます。その多くは、トリニティ・カレッジ・ダブリンにゆかりのある人物を表しています。

2023年2月1日のStブリギッドの日に、このスペースに初めて4人の女性学者の彫刻が加えられました。その女性とは、科学者のローザリンド・フランクリン、民俗学者・劇作家・演劇創設者のオーガスタ・グレゴリー、数学者のエイダ・ラブレス、そして女性の権利擁護の先駆者メアリー・ウルストンクラフトです。当館のビジターサービス・アンバサダー、アン＝マリー・ディフリーが詳しく語ってくださいました：アン＝マリー・ディフリー ビジターサービス・アンバサダーによる背景の説明：

現在、ロングルームには4つの新しい女性の彫刻が展示されていますが、これは非常に歴史的な出来事です。なぜなら、最近までロングルームにあるすべての彫刻は男性のものだったからです。というのも、女性がトリニティ・カレッジに入学したのは1904年になってからであり、これまで展示されていた男性の胸像は実際に18世紀から19世紀にかけて作られたものでした。新しく展示された彫刻の女性たちの専門は戯曲、科学、数学、女性の

レディ・オーガスタ・グレゴリー（戯曲部門）：アイルランドの文芸復興期において、最も重要な知的創造力の持ち主の一人となりました。彼女の作家、戯曲家、劇場の創設者、アイルランド語の擁護者、翻訳家、民俗学者、社会評論家としての活動は、1921年のアイルランド自由国家樹立に至るまでの数年間、そして樹立後の数年間、文化的ナショナリズムの信念を定義し、それを代弁するのに貢献しました。ジョージ・バーナード・ショーはかつて、グレゴリー夫人を「存命する最も偉大なアイルランド人女性」と評しました。

科学の分野において、ロザリンド・フランクリンの科学的発見は、1958年に若く37歳という早すぎる死によってキャリアが中断されたにもかかわらず、いくつかの方法で人類に利益をもたらしました。彼女の仕事は、20世紀で最も変革的な進展の一つである、DNAの構造を明らかにする鍵となりました。彼女の死後、これらの分野でノーベル賞が授与されましたが、故人に授与することはできないため、彼女自身には授与されませんでした。彼女の名前はしばしばノーベル賞を逃したと結びつけられていますが、彼女の残した功績はそれよりもはるかに重要です。

数学者のエイダ・ラブレスは、最初のコンピュータプログラマーとされています。彼女は1843年に、チャールズ・バベッジの最初の解析エンジンの設計に関する論文の著者であり、現代ではコンピュータと呼ぶものに相当するものでした！したがって、彼女の有名なノートは、第二次世界大戦中にブレッチリーパークで活動し、理論的なコンピュータ科学と人工知能の父と広く考えられているアラン・チューリングの活動から100年前に存在してい



ました。

最後に、女性の権利を先駆者とするマリー・ウォルストンクラフトが称えられる4人目の人物です。彼女は、1792年に出版された『女性の権利の弁護』の著者で、女性の権利運動の基本的な文献と考えられています。彼女は当時においては過激で、すべての人間は合理的な思考と理性の能力を持っていると主張しました。また、女性は教育を受け、社会に平等に貢献することが許されなければならないとも主張しました。

アイルランド最古のハープ

Track

12

このディスプレイケースには、現存するアイルランド最古のハープであるBrian Boru (ブライアン・ボル) ハープが入っています。

見覚えがあるでしょうか?現在、この紋章はすべての政府便箋、アイルランドの硬貨、国旗、パスポートに描かれています。また、Guinnessのエンブレムとしても使われているのをご覧になったことはありませんか??

Brian Boruのハープは柏と柳の木材でできており、よく見ると華麗な彫刻と、かつて半貴石があった跡が見られます。1782年にTrinity College Dublinに寄贈されたもので、1014年のClontarfの戦いで命を落としたBrian Boruというアイルランド王ゆかりの品です。この楽器は、アイルランドの城を回って当時の王たちを楽しませるために持ち運びできるよう設計されていました。

旧図書館の見学はここまでとなりましたが、ケルズの書の体験はまだ終わりではございません。フルチケット所有者の皆様には、続いてレッドパビリオンへご案内差し上げます。そこで今回の旅の第2部が始まり、ケルズの書と旧図書館の魅力をこれまでにないかたちで存分にお楽しみいただくことができます。

旧図書館を出た後、お持ちのスマートフォンを使ってトラック12を流してください。レッドパビリオンまでの散歩中に、トリニティの歴史的建物についてもっと詳しく知ることができます。

レッドパビリオンへの旅

Track

13

旧図書館を出たら、右手に進むと、レッドパビリオンに向かいます。途中には赤レンガのテラスハウス「ルブリックス」があります。ルブリックスはトリニティで最も古い建物で、1690年代に建設されました。現在は学生や大学のフェロー、そしてキャンパスを訪れる方々の宿泊施設として利用されています。

レッドパビリオンに行くには、左手にルブリックス、右手に旧図書館を見ながら進み、ニュースクエアに入ります。ニュースクエアに足を踏み入れると、直ぐにレッドパビリオンビルディングが見えてきます。正面入口に到達するには、最初の左折をしてルブリックスの後ろ側を歩いてください。

レッドパビリオンは、セルフガイド形式の体験施設です。訪れる人々は、旧図書館に収蔵されている貴重なコレクションやケルズの書を360度デジタルスペースで楽しむことができます。体験の終わりには、トリニティにインスパイアされたアイルランドのデザインコレクションや衣類、そして様々なギフトが並ぶショップもご用意しています。

残りの旅もお楽しみいただければ幸いです。